

第4章 かつしか観光振興プロジェクト

本章では、第3章で示した3つの基本的な方向性に沿って、葛飾区の観光振興を実現するために推進すべき観光振興プロジェクトの概要を示します。

1. 観光振興プロジェクトの概要と事業イメージ

■ 基本的な方向性1. 「かつしか」の魅力の再評価と創出

1-1. 「かつしか」のイメージの把握と活用

「葛飾(かつしか)」というイメージに対して、社会から広く期待される楽しさやくつろぎ感、品質等の内容を把握し、その期待に応えられるようにハードの整備やソフト面での取り組み等の観光まちづくりを行います。そして、こうした取り組みによって向上する「かつしか」のイメージを、来訪者の誘致や商品のPR等の手段として積極的に活用します。

・「かつしか」に関するイメージ調査の実施

区内の公共施設や集客施設、観光関連ホームページ等において、区への来訪者や一般区民を対象とする「かつしかのイメージ調査」を定期的に実施します。その結果は区報およびホームページ上で公表するとともに、区内の観光関連組織において施策に反映させます。

・暮らしやすいまちづくりの推進による「かつしか」イメージの向上
都心からのアクセス条件の良さや、下町を感じさせるまちなみと人の温かさ等、区民にとっての暮らしやすさと「かつしか」らしさを重視したまちづくりを推進することで、「かつしか」イメージの向上を図ります。

参考事例：[広島市] 市民の暮らしに潤いを与えるオープンカフェの設置

【概要】 「のんびりコーヒーを飲みたい」「広島にもおしゃれなカフェがあればいいのに」など、自分たちの暮らしをより楽しみたいという市民が主体的に取り組んだ事例です。市の都心部に豊富にある河岸緑地や公園などのオープンスペースを活用したカフェで音楽イベント等を開催することで、都市イメージの向上という効果も生まれています。

・民間事業者が主体となった「かつしか」イメージの活用

区内の集客力のある地域において、「かつしか」のイメージや葛飾区への来訪者層を主な対象とした商品PRイベントを開催する等、民間事業者が主体となって「かつしか」イメージを活用します。



1 - 2 . 既存観光資源の新たな手法による活用

柴又や堀切、水元公園等、すでに一定の集客力を持っている既存の観光地について、「寅さん」「両さん」といった葛飾区に縁のある全国区のキャラクター等も活用しながら、効果的な情報発信に一層取り組みます。

また、区民によるガイド活動や楽しい時間の過ごし方の提案等、新たな手法で魅力づくりに取り組むことで、来訪者の満足度をさらに高めて再来訪を促します。さらには、滞在時間を伸ばす取り組みや伝統産業製品のPR等、葛飾区内での消費につなげる施策にも取り組みます。

・ 葛飾区の自然・歴史文化の奥深さを踏まえた「かつしか」の魅力の新たな活用

すでに親しまれている自然資源や歴史文化的資源に関する情報発信に継続して取り組むとともに、新たな視点・手法での活用策を、地元の幅広い主体を巻き込んで推進します。

具体的な事業イメージ：魅力発掘ワークショップの開催と情報発信

【概要】 まだあまり知られていない地域の魅力を発掘することを目的に、観光関連事業者や商店主、一般区民などが広く参加するワークショップを開催し、その結果を踏まえて魅力情報のデータベース化や情報誌の制作につなげます（参考：リーディングプロジェクト5「『かつしか情報誌』発行事業」）。



・来訪者の満足度を高める新たな取り組みの推進

柴又や堀切、水元公園等、すでに多くの来訪者が訪れている地域において、さらにその数を増やし満足度を高めるために、快適な空間整備や新たな時間の過ごし方の提供、回遊性を高め滞在時間を延ばす等の取り組みを推進します。

具体的な事業イメージ：産学官の連携による観光農園の推進

【概要】 現在、葛飾区と水元地域の農家 2 軒および千葉大学園芸学部が連携してブルーベリーの栽培に取り組んでいます。将来的には、水元公園への来訪者がしばられ地蔵などの近隣の見所とあわせてブルーベリーの摘み取りを楽しみ、水元公園周辺で一定程度楽しい時間を過ごせるように、ブルーベリーの栽培規模の拡大や周辺散策コースの設定等の検討を進めます。



・全国区の知名度を持つキャラクター活用の検討

「寅さん」「両さん」といった全国的な知名度を持つ映画や漫画の舞台となった柴又・亀有地域において、これらのキャラクターを活用した空間整備のあり方やソフトの提供について具体的な検討を行います。

具体的な事業イメージ：亀有駅・公園周辺賑わい創出事業（リーディングプロジェクト 1）

詳細は「3.リーディングプロジェクト」を参照

【概要】 亀有駅周辺への来訪者が、「こちら葛飾区亀有公園前派出所（こち亀）」の舞台として描かれたまちに来たと実感しながら亀有およびその周辺地域を楽しめるように、「こち亀のまち」と感じさせるモニュメント等の設置や商店街のまちなみ整備等のハード整備、ストーリーにちなんだイベントの定期的な開催や「こち亀」関連商品の開発、周辺地域へ誘導する散策ルートの開発、まちの清掃活動といったソフト面の取り組みを行います。

・伝統産業製品の地元商店・飲食店等での積極的な利用・P R

葛飾区の伝統産業製品の魅力を来訪者に伝え購入につなげるために、商店や飲食店等での利用促進や展示・販売、ものづくりの現場の見学会等によって、その魅力を発信します。

具体的な事業イメージ：かつしかの伝統産業P R推進事業（リーディングプロジェクト2）

【概要】 葛飾区の伝統産業製品に親しむことと買うことの楽しさを来訪者へ提供するために、区内の商店や飲食店等において、食器や従業員の制服、店の看板・調度品等として使用しながらP Rを行います。また、商店街の空き店舗等での伝統文化や芸術関連のイベントと絡めた伝統産業製品の展示・販売や、製品がつくられている現場を訪れる見学会の開催や修学旅行の受け入れ等にも取り組みます。

・区有施設のさらなる活用

博物館やホール等の区有施設において、展示会やコンサート等の開催に合わせて、そのテーマに合致する地域資源（例：季節の花や寺社等）を訪れるミニツアーを同時開催したり、区民の文化活動の成果発表の場として開放すること等によって、地元に賑わいを創出します。また、区内・近隣区の文化施設が連携して、新たなイベントや共通サービスの実施にも取り組みます。



1 - 3 . 新たな魅力の創出

区内を流れる河川や区民の生活に根ざした商店街、庶民的な飲食店等、葛飾区民にとって身近で親しみのある魅力が、各地域にたくさんあります。それらのうち、現在は観光資源として認識されていないものや活用が進んでいないものについて、昨今の健康志向や環境保全に対する意識の高まりといった、来訪者の視点にたった新しい観光の魅力づくりを継続して行います。さらには、その品質を高め保持していく仕組みのあり方についても検討します。

・ 商店街での新たな楽しみ方の創出と空間の活用

商店街での食べ歩き情報の発信や、表通りから一本裏へ入った路地裏の散策、アーケード街でのミニコンサートの開催、ベンチの設置、空き店舗の活用等、若者など新たな人材の受け入れも検討しつつ、商店街での新しい楽しみ方を提供するサービスやイベント、空間整備を推進します。

・ 河川を活かした魅力の創出

堤防上から河川敷、水辺から水面まで、河川の周辺空間について、「川をみる」「川岸でつどう」「川にふれる」「川で移動する」といった多様な視点で魅力創出のための整備のあり方を検討します。

具体的な事業イメージ：水辺を活用した魅力創出事業（リーディングプロジェクト3）

【概要】 葛飾区内を流れる河川を、かつしか観光の魅力の幅を広げる観光資源として活用するために、区内の船着場（防災船着場の利用を検討）を結ぶ観光船を運航します。区への来訪者が多い時期の週末に、集客力のある地域同士を船で結び、各地域内では既存の観光資源と新たに魅力づけをした商店街等をつないでめぐるなど、水上の移動を含む回遊ルートの開発を行います。

トライアル・グループからの提案：

「昭和レトロ」の雰囲気の活用「つながるしょうわ～昭和・笑輪」

区内には立石商店街など、昭和 30 年代の雰囲気を感じられる場所がたくさんあります。この時代は、戦後から大きく社会が変化し最も活気があった時代として多くの人が郷愁を感じるとともに、現在の若い人たちにとっては非日常的な魅力を持っています。葛飾区に残る昭和の雰囲気を活用して、以下のような観光まちづくりに取り組むことを提案します。

- 1．移動時間に楽しさを演出～バスの整備：区内を移動する時間も楽しく充実したものとするために、バスの外観や内装、運転手の服装等を、「昭和レトロ」をテーマに統一する
- 2．他地域との連携ツアーの催行：荒川に船を運航することで堀切菖蒲園とお台場とをつなぎ、“昭和”をテーマにしたツアーを催行する
- 3．レトロ資源を発見する楽しさの提供～「昭和レトロ資源探索マップ」の作成：区内に点在するレトロ資源を、ゲームとして楽しみながら探すマップを作成する



・新たな魅力発掘への継続的な取り組み

区民の日常生活に関わりの深い銭湯や庶民的な飲食店、夜景、歴史的な建築物やかつて行われていた祭事等、現在は観光資源として顕在化していない身近な事柄を、観光振興の視点から新たな資源とする取り組みを継続的にを行います。

トライアル・グループからの提案：

銭湯と曳舟川親水公園の活用「下町体験“かつしか”」

葛飾区内にはたくさんの銭湯があります。そこで、以下のような方向性を提案します。

- ・ 銭湯は、建物の外観や富士山が描かれている内装などから、懐かしい昭和の雰囲気を感じることができる。周辺の観光資源とつないで、積極的に活用してはどうか
- ・ 現在の利用者は中高年層や近所の住民が中心だが、銭湯が持つ雰囲気は大学生にとってとても新鮮である。情報発信を工夫することで、新しく客層を広げることも可能ではないか

具体的には、曳舟川親水公園とその周辺の銭湯が一体となった観光地づくりを行うこととします。

- ・ 銭湯の良さのアピール：風呂の日（毎月 26 日）や銭湯の日（10 月 10 日）にイベントを開催する
- ・ 曳舟川親水公園の整備：親水公園全体に水を流す、休憩できるベンチを置く、公園周辺の道路を歩行者に優しい設計にする（車を締め出す、分断されている園地を一体化して歩きやすくするなど）、亀有とお花茶屋間に距離表示をする（歩いた距離がわかる表示）
- ・ 地元住民の参画

銭湯は、家庭風呂の普及や建物の老朽化、燃料費の高騰等コスト面の問題、そして後継者不足といったことが原因で、廃業する施設が増えていきます。今後、銭湯をかつしか観光の魅力のひとつと位置づけ、上記の提案に加えて、「飲食店やイベント等との連携」「周遊ルートへの組み込み」「親子のふれあいの場としての活用」「外観や内装等ハード面の改善」「木質ペレットの利用等コスト・環境面での新たな試み」等、様々な視点で検討が進むことが期待されます。



・「葛飾ブランド」の形成・活用

区内の地場産業製品が、消費者に選ばれる「葛飾名物」としての魅力を持続けるために、品質向上と品質管理、ものづくりを担う人材の育成、情報発信等に取り組みます。

こうした産業製品の品質向上とともに、これらを生産し提供する場や作り手の顔が見えるようにしていくことで、葛飾区全体の地域イメージを高めて「葛飾ブランド」を生み出し、それを活用していきます。

具体的な事業イメージ：[葛飾区] 葛飾ブランド創出支援事業

【概要】 葛飾区の製造業や農業など、区内で生産されている優良な製品に「葛飾ブランド」にちなむ愛称をつけ、区内製品のイメージアップを図るとともに販路を拡大することを目的とする事業です。

具体的には、「葛飾ブランド」にちなんだ愛称（葛飾町工場物語、葛飾元気野菜など）やロゴマークの作成、ポスターやカタログの作成、見本市に出展することなどで区内製品をPRしていきます。

・未活用空間等の活用検討

現在、必ずしも活用が進んでいない一定規模以上の土地や施設について、観光振興の観点から、地元地域への新たな賑わいや経済波及効果を創出するための活用策を検討します。

2 - 1 . 主となるターゲットの明確化

中高年層を中心とするこれまでの葛飾区への来訪者に加えて、若年者層や外国人にとっても共感される魅力づくりと情報発信を行い、葛飾区全体として、あらゆる人々が気軽に何度でも訪れたい観光まちづくりを進めます。

また、区内の各地域の個性は多様であるため、重視するターゲットや施策については個々に明らかにすることとし、その施策立案に資するために区全体で観光動態調査等を実施します。

・観光動態調査の実施による来訪者像の把握

葛飾区の観光動向を長期的かつ正確に把握するために、定期的な観光動態調査の実施や来訪者のニーズを日常的に把握する仕組みづくり等、観光統計の充実と継続的な来訪者像の把握に取り組みます。

・観光動態調査を踏まえた地域別施策の推進

観光動態調査によって把握された来訪者に関するデータを活かし、各地域において、空間整備やソフト施策、区民を主体とする受け入れ態勢の充実等の施策を推進します。

・主に児童・生徒を対象とした、新しい体験を伴うプログラムの開発

地場産業への理解と後継者の発掘を視野に入れ、区外からの修学旅行や社会科見学、区内の中学・高校生の職場体験の場等として受け入れを進めるために、近郊農業の体験やものづくりの製造・販売に関する見学・体験等を内容とするプログラムを開発します。

・外国人に対して発信する情報の精査と発信手段の整備

外国人来訪者に最も強く共感される「かつしか」の魅力のテーマ・内容を、発地国ごとにきめ細かく明らかにするとともに、効果的な発信手段（基本言語、媒体、情報提供の場所等）の検討と整備に取り組みます。

トライアル・グループからの提案：

外国人来訪者の誘致「FEEL SHIBAMATA！」

国をあげて訪日外国人の誘致が進められているなかで、葛飾区でも柴又において、以下のような取り組みを行うことを提案します。

1. 柴又の情報発信：外国語に対応した WEB の開設、雑誌による情報発信、キャッチコピーの作成、P R 活動の拡充
2. 受け入れ態勢づくり：外国語表記の案内板の整備、観光資料置き場の設置、外国人の視点で考えた観光マップの制作、観光案内所の設置、商店街での実演と接客態度の改善、清掃活動
3. 下町の魅力訴求：帝釈天参道の C I 事業、体験型ツアーの実施、“下町” 同士でコラボレート



参考事例：[大阪府] 外国人向けフリーペーパーの発行

【概要】 大阪府は、大阪の魅力を P R するために、英語、中国語、韓国語によるフリーペーパーを創刊しました（年 4 回発行予定）。創刊号では「インスタントラーメン」を特集し、大阪の食文化を紹介しています。タブロイド判で 8 ページ。英語・中国版は各 5 万部、韓国語版は 2 万 5 千部を発行。国内の留学生支援施設やホテル、空港等に置くほか、北京、上海、香港、ソウルで、大学や旅行会社、日系企業等へ配布する予定です。

2 - 2 . 回遊性を高める周遊ルートの開発

すでに多くの人々が訪れている地域から周辺地域へと人々を回遊させることで、区全体ににぎわいを創出するために、交通機関と連携してハード面でのアクセス向上を図るとともに、「かつしか」ならではのテーマ性を持った周遊ルートの開発や、楽しくてわかりやすい案内板の整備等に取り組みます。

・既存の集客地域から周辺へ来訪者を回遊させる仕組みづくり

柴又や亀有駅前、水元公園、各種レクリエーション活動の場等、現在多くの来訪者を迎えている地域において、その周辺地域の情報の発信や、周辺部にまたがって一定期間イベントを開催すること（イベント・リンク）等、区内に広く回遊性を生み出す仕組みづくりを行います。

・「かつしか」ならではのテーマ性・物語性のある周遊ルートの開発

区内の観光資源を、「かつしか」の魅力を体感できる個性的なテーマでつなぎ、所要時間（数時間、終日等）や来訪頻度別（毎年1回、四季折々、人生の節目等）等、多様な来訪スタイルに対応できる周遊ルートとして開発します。

具体的な事業イメージ：かつしか周遊ルート開発事業（リーディングプロジェクト4）

【概要】 葛飾区へ季節を変えて何度も来訪してもらうために、自然や歴史、映画や文学に関するテーマや、季節や時間帯（朝や夜）別、ウォーキングや飲食といった様々な切り口で、来訪者が葛飾区を歩いて、見て、学んで、飲食するなどして楽しめる魅力的な周遊ルートを開発します。それらのルートは、区の広報誌や観光関連ホームページ、趣味の雑誌やウォーキングの愛好会等、テーマごとに訴求力のある媒体・組織へ重点的に情報発信します。

・観光資源を結ぶアクセス手段とその魅力の向上

バス会社やタクシー会社との連携等によって、区内の観光資源や鉄道の駅等の間をスムーズに、かつ楽しく移動することができる交通手段を整備します。

・回遊ルートに配慮した駐車場や案内板の整備

区民の生活空間と来訪者を迎えるエリアとの棲み分けや動線の整理を行うとともに、観光動態調査等を踏まえて、来訪者の回遊性を高め、かつわかりやすい駐車場や案内板の整備を行います。



2 - 3 . 気軽に何度も訪れたい環境整備と情報発信

都心からのアクセス条件に恵まれている葛飾区が、多くの人々が気軽に何度も訪れたいまちとなるために、めぐって楽しい景観づくりや誰にとっても利用しやすい環境整備、季節の花やイベントに合わせたタイムリーな情報発信を行うなどのハード整備・ソフト面の取り組みを進めます。

また、「かつしか」の魅力情報を収集・整理し、効果的に発信するために、ホームページの整備や、散策マップ・イベントカレンダー・情報誌の作成等に取り組みます。

・めぐって楽しい魅力的な道づくり・景観づくり

花の植栽や灯りによる夜道の演出、健康づくりにつながるウォーキングやサイクリング用のルート形成、一体的な整備が好ましい地域における家並みの統一的整備等、めぐって楽しい魅力的な道づくり・景観づくりを行います。

トライアル・グループからの提案：

ウォーキングやサイクリングを活かしたルート整備「楽しくある区 かつしかせせらぎウォーキング」

葛飾区民の健康増進とともに、区外からもウォーキングを目的とした来訪者を増やすことを目指して、わかりやすく、歩きやすいルートづくりを進めるために、以下のような取り組みを提案します。

- ・ 看板の設置～道案内：魅力的な距離の表示（例：亀有駅からここまで キロメートル）
- ・ 道の整備～安全で、四季を通じて飽きない道づくり：緑や花の植栽、曳船川親水公園にある柵の撤去
- ・ イベントの開催～歩くきっかけづくり：ウォーキング指導員や自然について解説できるボランティアガイドの同行、血圧を測るイベントやスポーツテストの実施
- ・ 冊子の配布～継続させる工夫：自分が歩いた証を残す冊子を配布、コースを一周した後に終了証などを交付



参考事例：「柴又レトロ 宵灯り計画」

【概要】 柴又の夜の新たな魅力づくりとして、帝釈天参道沿いの店舗の軒下に灯りをつり下げ、店の看板と参道を照らす事業を開始しました（平成18年9月から）。このライトアップ事業のスタートを記念する「大正ロマン 柴又宵まつり」イベントでは、大正時代の仮装大会や大道芸等が行われました。この事業は、地元商店会や自治会が中心となって「柴又街並み協議会」を組織し、東京都の「地域連携型モデル商店街事業」のモデル事業として実施されたものです。



・観光施設におけるハード・ソフト面のユニバーサルデザイン化

高齢者や障害者、外国人など、あらゆる人々が安全に楽しい時間を過ごすことができるように、段差の解消等のハード面の整備とともに、「かつしか」の魅力を十分に伝えられるソフト面の整備にも取り組みます。

・四季それぞれの魅力の発信

季節を変えて何度も来訪を促すために、花の開花や寺社の祭事、地元で伝わる歳時記、旬の食の魅力等、四季それぞれの魅力をタイムリーに発信します。花の開花状況であればインターネットを通じてリアルタイムに情報発信するなど、観光資源別に効果的な媒体を活用します。

・効果的な情報発信の推進

情報発信を総括的に行う組織を強化して「かつしか」の魅力情報を常に収集・整理し、イベントカレンダーの作成やホームページの活用等によって、適時に適切な媒体へ情報発信を行います。また、既存の方法に留まらず、新しい情報発信手法の開発にも取り組みます。

具体的な事業イメージ:「かつしか情報誌」発行事業(リーディングプロジェクト5)

【概要】 葛飾区の観光資源やイベントに関する情報を、よりきめ細かく効果的に発信するために、マスメディアを活用しながら、区民が主体的に情報収集して編集し、葛飾区に関する情報誌として発行します。収集した情報はデータベース化して管理(定期的な更新等)するとともに、ホームページやマスコミ等を通じたタイムリーな情報発信に役立てます。

参考事例：[国土交通省] まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）

【概要】 国土交通省は、外国人をはじめとする観光客にとって移動しやすい環境を整えるため、地域の創意工夫を活かした情報提供の仕組みづくりに対して支援を行っています（単年度事業）。実地地域の選定にあたっては、「オリジナリティ」「地域の自助努力」「官民一体となった推進体制」等が重視されます。

【実施主体】 地方公共団体等が、事業の基本構想等を策定するために広く官民の関係者からなる協議会を設置して、事業計画書を作成します。この協議会が、事業実施にあたって中心的な役割を果たします。

【対象事業例】 ・観光情報提供のための体制の構築、・携帯電話等を利用した歩行者の移動支援、・標識や電子媒体等様々なメディアが連携・補完できる情報提供システムの構築



出典：国土交通省「まちめぐりナビプロジェクト」

■ 基本的な方向性 3 . 「かつしか」区民とともに取り組む

受け入れ態勢の整備

3 - 1 . 区民が主体となった「観光まちづくり」の推進

葛飾区における観光振興の方向性や各地域において求められる取り組みについて区民の理解を得るために、広報活動を推進します。

また、区民自身が日常的に区内で楽しい時間を過ごすとともに、生涯教育・文化活動等の中で身近に来訪者と交流することを通じて、葛飾区での暮らしの良さについて再認識して「葛飾区民としての誇り」を醸成し、さらには、区民が主体となって、活力のある「観光まちづくり」を推進します。

・ 区民に対する葛飾区の観光振興施策に関する広報活動の推進

葛飾区が観光振興に一層取り組むにあたって、「かつしか観光」の将来目標像の内容や、各地域の魅力向上のために地元区民に期待する役割等に関して、区民への広報活動を推進し、「観光まちづくり」への参画を促します。

・ 区民による区内観光の実践

区民自身が日常的に地元地域や葛飾区内で楽しい時間を過ごしたくなるように、そしてそのことが、区外からの来訪者へ「かつしか」の魅力を自然に伝えることにもつながるように、観光関連組織から区民に対して、身近な文化財や観光資源に関する情報発信を強化します。また、区民が主体となって企画するイベントの開催を検討します。

トライアル・グループからの提案：

区民にとって親しみのある場所の魅力向上

区民が日常的に訪れ親しんでいる場所を一層魅力ある、楽しめる場所にすることで、区民が地元で時間を過ごすようになってにぎわいが生まれます。そのために、以下のような取り組みを提案します。

【水元公園】

- ・ 地元の野菜を使った料理を提供するレストランやカフェの開設（地元住民が主体となる）
- ・ フリーマーケットなどのイベント開催
- ・ 地域通貨を作り、ボランティアに手入りを依頼
- ・ 公園内でレンタサイクルセンターを開設（料金設定を安く）
- ・ 直通バスを通し、アクセスを改善
- ・ 地元の学校と提携し、ウォークラリー等に利用してもらう
- ・ 公園内に子供が遊びに集中することが出来るスペースと備品を提供し、地域社会の子供達同士の関わりを深める（例：こま、めんこ、ビー玉、剣玉等）
- ・ インストラクターを地域住民から募り、基本的にはボランティアで運営する
- ・ 地域の小学校などの協力を得て周知を図っていく



【立石商店街】

- ・ 居酒屋マップを作成する。その際、他の情報は極力排除し、居酒屋だけに特化したものを作ることでインパクトをねらう
- ・ 地元住民には区政だより等、外客には駅での配布活動やインターネットで公開するなどして情報を広める



・区民の生涯教育・文化的活動とともに進める魅力発見と情報発信
学校教育の場や郷土史研究会等において、「かつしか」の魅力を発見する活動や調査研究活動等を、広く区民の参加を募って積極的に進め、その成果を区内外に発信します。

具体的な事業イメージ：区民による観光まちづくり活動支援事業（リーディングプロジェクト6）

【概要】 葛飾区民が日常的に行う生涯学習や趣味、文化活動等の中で、まち歩きや郷土史の勉強など、自分たちのまちの良さを発見する活動を行い、魅力的な観光まちづくりへの意識を高めて実践的な取り組みへとつなげていきます。こうした活動の成果は、観光情報のデータベースとして活用するとともに、区民自身が積極的に「まちを語る」ことで口コミとなって情報が発信されることも期待されます。

トライアル・グループからの提案：

地元住民ガイドの活用「下町人情街道～ガイド付き柴又七福神めぐり」
葛飾区民自身が、観光対象としての価値を持っていることから、柴又七福神を事例として、地元住民が同行する「ガイド付き柴又七福神めぐり」を提案します。このことによって、葛飾区の歴史・文化が伝承され、住民と来訪者が交流する機会が増えるという効果が期待されます。

- ・ 柴又七福神と周辺の観光地（例：山本亭）を組み合わせたルートづくりを行う
- ・ 地元住民の目線で、あるがままの姿を来訪者に伝える
- ・ 寺の住職などと協力して、紙芝居や劇といったわかりやすい方法で歴史などを伝える



・区民による観光資源の保全・育成の仕組みづくりの検討

公園や桜並木、寺社の庭といった安らぎの空間を、自分たちのものとして常日頃、愛情を込めて手入れする仕組みづくりを検討します。また、身近にある水と緑に親しみながら、その環境を保全・育成する意識を高めます。



3 - 2 . 観光関連産業に関わる人材の育成

葛飾区内で観光関連産業に携わる人材の育成については、すでに先進的な取り組みによって実績を上げている人々から学んだり、互いに知恵の交換を行う場を設けること等で、専門的な知識や実践的な手法を習得できる取り組みを進めます。

また、身近な地域の魅力を伝えるボランティアガイドや、後継者不足が課題となっている伝統産業や商店街等の人材育成については、区民の生きがいきづくりや若い人材の発掘も視野に入れながら、一般区民も含めて広く募って進めることとし、長期的な視点で取り組みます。

・区内における観光振興策の成功事例の把握と人材のネットワーク構築

区内における観光振興・地域活性化の成功事例を集約し、葛飾区と観光関連組織、民間事業者等の現場で取り組む人や組織同士をネットワーク化し互いに交流することで、知恵の共有と観光施策への反映を図ります。

・生涯学習の視点を加味した地域ボランティアガイドの育成

正確な知識と人を惹きつける話術を備えたボランティアガイドの育成によって、来訪者の「かつしか」に対する理解を高めます。ガイドの育成にあたっては、ガイドとなる区民自身の成長と生きがいきづくりにも寄与する仕組みのあり方を検討します。

・「かつしか」の魅力を創造し今後を担う人材の育成

花菖蒲の栽培者や伝統産業の職人、商店街の後継者等、区内において「かつしか」の魅力を創造して来訪者に提供し、そしてその技術や生業を次世代へと伝える若い人材の発掘・育成に取り組みます。

参考事例：[群馬県]ぐんまテクノスクール

【概要】 群馬県では、児童への「ものづくり教育」に取り組んでいます。その中の「ぐんまテクノスクール」は、小学５・６年生を対象に年間８回にわたって、県立産業技術専門校の最先端の実習設備を使いながら、製図、機械工作、研磨等の本格的な作業を行うことが特徴です。今後は、高校生や大学生、社会人を対象としたものづくり体験事業の実施についても検討しています。

3 - 3 . 区内外の観光関連組織、近隣エリアとの連携

葛飾区の観光振興のために、区内の観光関連組織間で役割分担を明確にし、地元の民間事業者や区民とも連携して、「かつしか観光プラン」に盛り込まれた諸施策を着実に推進します。

また、区外の観光関連組織や民間事業者、近隣区と定期的な情報・意見交換の場を設けること等を通じて、広域観光ルートや旅行商品の開発、効果的な情報発信等を推進します。

・ 区内の観光関連組織の役割分担の明確化と「かつしか観光プラン」の着実な推進

区内の観光関連組織がそれぞれに担う役割を明確にし、葛飾区観光協会を中心に相互に連絡・調整を図りながら、観光プランに盛り込まれたプロジェクトを着実に推進します。

・ 区外の観光関連組織との定期的な情報・意見交換の場の設置

(財)東京観光財団や葛飾区内に営業網を持つ鉄道会社・バス会社、旅行会社、マスコミ等と定期的に情報・意見交換を行う場を設置し、旅行商品の造成等について連携をさらに強化します。

・ 近隣区とともに推進する広域観光ルートの開発と情報発信

「江東5区」の他の構成区（墨田区・江東区・足立区・江戸川区）や台東区とともに、新東京タワーや“下町的空間・イメージ”等をテーマに、連携して広域観光ルートを開発し、情報発信に取り組みます。

具体的な事業イメージ：「東京下町ネットワーク化」事業（リーディングプロジェクト7）

【概要】 平成23年の新東京タワーの完成によって「江東5区」や台東区への来訪者が増加することを見据えて、関係区と「(仮称)東京下町ネットワーク」の形成に向けた協議を行い、広域観光ルートの開発や共同での情報発信の実施等を目指します。

2．プロジェクトの推進主体とスケジュール

かつしか観光振興プロジェクトの推進主体としては、区内の「行政」「民間」および「区外の観光関連組織・自治体」に分けることができ、各々期待される役割は異なります。区内の主体をさらに詳細に捉えると、「葛飾区」「観光関連組織」「民間事業者」「区民」が考えられます。本観光プランでは、主にこれら4つの主体に「区外の観光関連組織・自治体」を加えた5つを、プロジェクトの主な推進主体として設定します。かつしかの観光振興に向けて、地域に根ざした縁^{えん}をもとに区民同士がともに活動し（“地縁”^{ちえん}づくり）、区外の観光関連組織・自治体ともパートナーとして相互に情報交換をするなどして広域で連携していくこと（“知縁”^{ちえん}づくり）が求められています。

スケジュールについては、計画期間を10年間として前期・中期・後期に分けることとし、すぐに着手して実現すべきものを「前期プロジェクト」、息の長い検討・取り組みが必要なものを「前～後期プロジェクト」、着手前に事前の調査等のためにやや時間を要するものを「中・後期プロジェクト」とします。

また、本観光プランを着実に推進するためには、区内の観光関連組織の役割分担を明確にし、観光プランに盛り込まれたプロジェクト群の進捗を定期的にチェックすることが重要です。そのために、前期から中期へ、中期から後期へと期をまたがる年度において、その直前の期における進捗状況を確認し、その後の期のプロジェクト構成を見直すことも検討します。

3. リーディングプロジェクト

「かつしか観光プラン」推進期間中に取り組むべき事項は多岐にわたりますが、予算や推進体制等の制約があるため、すべてのプロジェクトに同時に着手することはできません。したがって、まずは主に以下の4つの視点で、かつしか観光振興プロジェクトの中から7本のリーディングプロジェクトを選定し、これらから優先的に取り組むこととします。

容易性・実行性（すぐにできること）

- ・ 多額の費用がかからない
- ・ 協力が得られやすい
- ・ すでに取り組みの芽が育ちつつある

緊急性（すぐやるべきこと）

- ・ 事態が逼迫しており、すぐに着手しないと手遅れになる

必要性・波及度（先にやっておくべきこと）

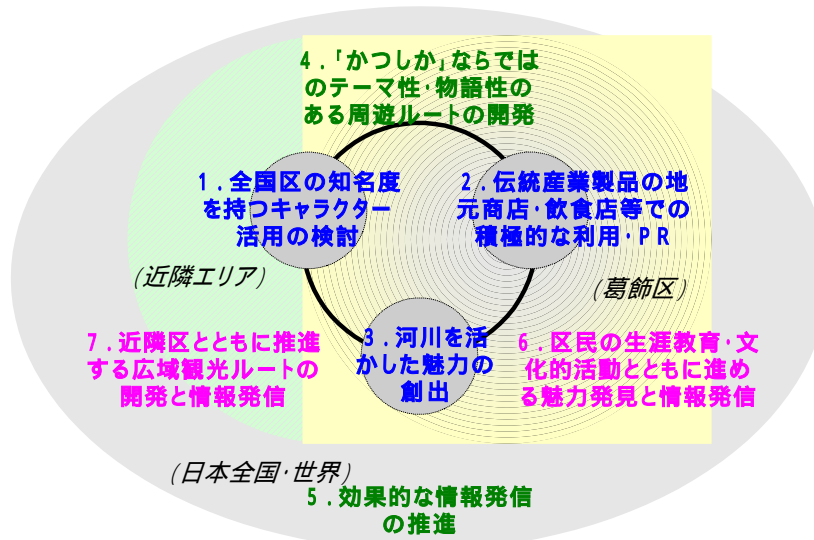
- ・ 様々な施策との関わりが強い、核となるもの

アピール性・明示性（みんなでできること）

- ・ 多くの人に関わることで自信や誇りにつながる

以下では7本のリーディングプロジェクトの事業イメージをまとめます。

図4 - 1 7本のリーディングプロジェクトの関係(イメージ)



基本的な方向性1. 「かつしか」の魅力の再評価と創出

基本的な方向性2. 身近で回遊性の高い「かつしか」の実現

基本的な方向性3. 「かつしか」区民とともに取り組む受け入れ態勢の整備

リーディングプロジェクト１：

全国区の知名度を持つキャラクター活用の検討（プロジェクト番号：１ - ２ - ）

「寅さん」「両さん」といった全国的な知名度を持つ映画や漫画の舞台となった柴又・亀有地域において、これらのキャラクターを活用した空間整備のあり方やソフトの提供について具体的な検討を行います。

具体的な事業イメージ：亀有駅・公園周辺賑わい創出事業

【概要】 亀有駅周辺への来訪者が、「こちら葛飾区亀有公園前派出所（こち亀）」の舞台として描かれたまちに来たと実感しながら亀有およびその周辺地域を楽しめるように、「こち亀のまち」と感じさせるモニュメント等の設置や商店街のまちなみ整備等のハード整備、ストーリーにちなんだイベントの定期的な開催や「こち亀」関連商品の開発、周辺地域へ誘導する散策ルートの開発、まちの清掃活動といったソフト面の取り組みを行います。

【推進体制】 地元の商店街や住民等、亀有の活性化に関心と利害関係がある人々が主体となって、広く合意形成を築きながら推進します。情報発信については、葛飾区観光協会等の観光関連組織の協力も得て取り組みます。

【留意点】 キャラクターの使用にあたっては、「こち亀」の制作者との間で著作権について確認することとします。



リーディングプロジェクト2：

伝統産業製品の地元商店・飲食店等での積極的な利用・PR（プロジェクト番号：1 - 2 - ）

葛飾区の伝統産業製品の魅力を来訪者に伝え購入につなげるために、商店や飲食店等での利用促進や展示・販売、ものづくりの現場の見学会等によって、その魅力を発信します。

具体的な事業イメージ：かつしかの伝統産業PR推進事業

【概要】 葛飾区の伝統産業製品に親しむことと買うことの楽しさを来訪者へ提供するために、区内の商店や飲食店等において、食器や従業員の制服、店の看板・調度品等として使用しながらPRを行います。また、商店街の空き店舗等での伝統文化や芸術関連のイベントと絡めた伝統産業製品の展示・販売や、製品がつくられている現場を訪れる見学会の開催や修学旅行の受け入れ等にも取り組みます。

【推進体制】 利用者の評価を踏まえた新たな商品開発を行うためにも、利用者と接する各店と業界団体とが連携して取り組みます。また、競争力のある商品づくりのために、大学等との連携も検討します。

【留意点】 高価な伝統産業製品についてはレンタルやリースを導入するなど、まずは製品を区内の商店・飲食店で広く使ってもらうための工夫を行います。そして実際に製品に触れられる場所を、区の広報誌やホームページ等で積極的に紹介します。

《かつしかの伝統産業 一覧》

江戸小紋 江戸更紗 江戸刷毛 江戸和竿 江戸漆器 江戸押絵羽子板 市松人形 江戸切子 江戸打刀物 東京打刀物 鉄 銅器（おろし金） 東京銀器 伊勢研紙 江戸型彫 手ひねり細工 今戸焼 焼きもの 江戸からかみ 江戸木彫刻 東京仏壇 竹工芸 東京組紐 江戸鼈甲 飾熊手 印傳 鋳師 棕櫚たわし 提灯 銅版仏画 東京染小紋 東京手描友禅 東京仏幅友禅 東京三味線 唐木細工 東京無地染 彫金 印章ケース 硝子彫刻 象牙彫刻

出典：「かつしかの伝統産業 職人の技を売る51人衆」葛飾区伝統産業職人会

リーディングプロジェクト3：

河川を活かした魅力の創出（プロジェクト番号：1 - 3 - ）

堤防上から河川敷、水辺から水面まで、河川の周辺空間について、「川をみる」「川岸でつどう」「川にふれる」「川で移動する」といった多様な視点で魅力創出のための整備のあり方を検討します。

具体的な事業イメージ：水辺を活用した魅力創出事業

【概要】 葛飾区内を流れる河川を、かつしか観光の魅力の幅を広げる観光資源として活用するために、区内の船着場（防災船着場の利用を検討）を結ぶ観光船を運航します。区への来訪者が多い時期の週末に、集客力のある地域同士を船で結び、各地域内では既存の観光資源と新たに魅力づけをした商店街等をつないでめぐるなど、水上の移動を含む回遊ルートの開発を行います。

【推進体制】 河川や護岸を管理する国や東京都と連携しながら推進します。

【留意点】 水上を移動することの非日常的な楽しさとともに、川沿いの美しい景観づくりや水質の保全、船着場や河川敷の賑わい創出など、様々な視点で河川をとらえて魅力を創出します。



参考事例：[広島市] 川を行き交い、まちの魅力を再発見～水上タクシー
“^{がんぎ}雁木タクシー”

- ・ 広島市内の6本の川に多く残る雁木（川の護岸の階段）を利用して、約50か所で乗り降りできる水上タクシーを運行
- ・ 利用方法は、事前の予約の他に、水上を行き来しているタクシーを呼び止めたり、電話で呼び寄せる
- ・ 乗船料金は、基本料金500円で2kmごとに500円加算。利用者の都合で停泊する場合は10分ごとに500円加算
- ・ 運営組織はNPO法人雁木組。広島市民と観光客に対して、河川と雁木を活用した水上交通ネットワークに関する事業を行い、広島の魅力づくりにつなげることを活動の目的とする
- ・ 本事業は、海上運送法第二十条第二項にもとづく不定期航路事業

リーディングプロジェクト4：

「かつしか」ならではのテーマ性・物語性のある周遊ルートの開発（プロジェクト番号：2 - 2 - ）

区内の観光資源を、「かつしか」の魅力を体感できる個性的なテーマでつなぎ、所要時間（数時間、終日等）や来訪頻度別（毎年1回、四季折々、人生の節目等）等、多様な来訪スタイルに対応できる周遊ルートとして開発します。

具体的な事業イメージ：かつしか周遊ルート開発事業

【概要】 葛飾区へ季節を変えて何度も来訪してもらうために、自然や歴史、映画や文学に関するテーマや、季節や時間帯（朝や夜）別、ウォーキングや飲食といった様々な切り口で、来訪者が葛飾区を歩いて、見て、学んで、飲食するなどして楽しめる魅力的な周遊ルートを開発します。それらのルートは、区の広報誌や観光関連ホームページ、趣味の雑誌やウォーキングの愛好会等、テーマごとに訴求力のある媒体・組織へ重点的に情報発信します。

【推進体制】 一般区民にもルート開発活動への参加を呼びかけながら、観光協会等が中心となって推進します。

【留意点】 周遊ルートの開発は、わかりやすくかつテーマ性を感じられる案内板の整備や、花の植栽や灯りによる夜道の演出等といった魅力的な沿道整備とあわせて進めます（参考：プロジェクト番号2 - 2 - 「回遊ルートに配慮した駐車場や案内板の整備」、2 - 3 - 「めぐって楽しい魅力的な道づくり・景観づくり」）。

《かつしか周遊ルートのテーマ例》

- 「“寅さん”の町を歩く」「東京の菖蒲をめぐる」（葛飾区内外）
- 「川沿い・水辺を歩く」（江戸川・荒川・中川、埋め立てられたかつての堀）
- 「川で運ぶかつしかの野菜・朝市」「ジョギングと銭湯」
- 「かつしかの商店街」（飲食店マップとクーポンの組み合わせ）
- 「かつしかの美しい眺め」（橋の上からの夜景、川の上からの眺めなど）
- 「文学作品の舞台となったかつしか」「花電車が走ったかつしか」
- 「南葛八十八箇所めぐり」「かつしかの伝説・昔話・落語」など

リーディングプロジェクト5：

効果的な情報発信の推進（プロジェクト番号：2 - 3 - ）

情報発信を総括的に行う組織を強化して「かつしか」の魅力情報を常に収集・整理し、イベントカレンダーの作成やホームページの活用等によって、適時に適切な媒体へ情報発信を行います。また、既存の方法に留まらず、新しい情報発信手法の開発にも取り組みます。

具体的な事業イメージ：「かつしか情報誌」発行事業

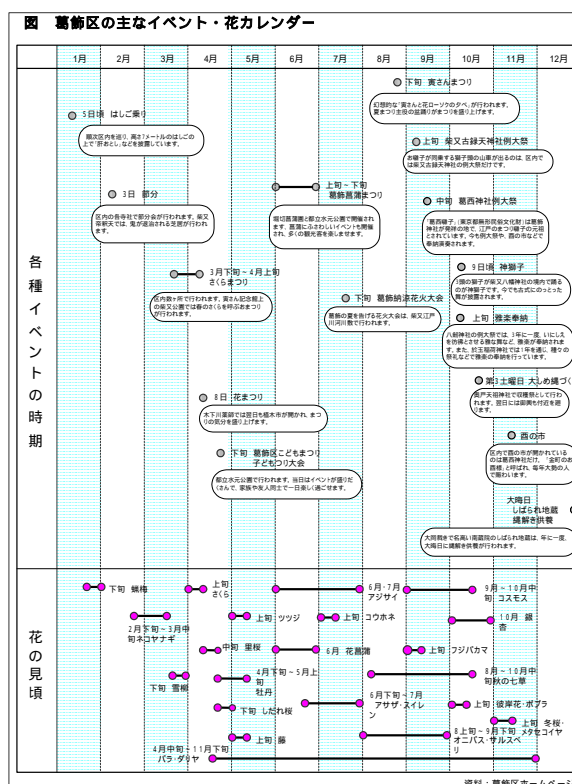
【概要】 葛飾区の観光資源やイベントに関する情報を、よりきめ細かく効果的に発信するために、マスメディアを活用しながら、区民が主体的に情報収集・編集する「かつしか情報誌」を発行します。収集した情報はデータベース化して管理（定期的な更新等）するとともに、ホームページやマスコミ等を通じたタイムリーな情報発信に役立てます。

【推進体制】 観光協会等が中心となり、民間事業者や一般区民とともに取り組みます。

【留意点】 地元・葛飾区民ならではの情報を、来訪者の視点に近い一般区民の観察眼と行動力で集め、冊子としてまとめます。情報の正確さと適時性、人を惹きつける切り口等を工夫します。

《「かつしかイベントカレンダー」のイメージ》

詳細は、資料編を参照



リーディングプロジェクト6：

区民の生涯教育・文化的活動とともに進める魅力発見と情報発信（プロジェクト番号：3 - 1 - ）

学校教育の場や郷土史研究会等において、「かつしか」の魅力を発見する活動や調査研究活動等を、広く区民の参加を募って積極的に進め、その成果を区内外に発信します。

具体的な事業イメージ：区民による観光まちづくり活動支援事業

【概要】 葛飾区民が日常的に行う生涯学習や趣味、文化活動等の中で、まち歩きや郷土史の勉強など、自分たちのまちの良さを発見する活動を行い、魅力的な観光まちづくりへの意識を高めて実践的な取り組みへとつなげていきます。こうした活動の成果は、観光情報のデータベースとして活用するとともに、区民自身が積極的に「まちを語る」ことで口コミとなって情報が発信されることも期待されます。

【推進体制】 区の生涯学習課や博物館等が主催する年間行事、小・中学校の授業において、「まちの魅力を発見する」という視点を意識的に取り入れます。情報のデータベース化や情報発信については、観光協会等が中心となって推進します。

【留意点】 まちの良さを発見する活動の一環として「かつしか情報誌」の発行を位置づける等、他の事業とも関連づけながら推進します（参考：プロジェクト番号2 - 3 - 「効果的な情報発信の推進」）。

参考事例：[群馬県伊香保温泉] 町民みんなでまちを知り、語るために～「伊香保温豆手帖」

- ・ 町全体の魅力（温泉・歴史・文化・自然等）や町の概要を紹介（54ページ）
- ・ 「まちづくりの活動」として、中学生が総合学習の時間に調べた成果や提案、まちづくり会議「品質向上委員会」で議論された内容を紹介
- ・ 別冊としてデータ集（主要施設の連絡先・時刻表・マップ等）も作成（A3判1枚、両面印刷）。旅館の仲居さんの帯にはさめる大きさとし、情報更新にあわせて随時、刷り直せるような紙質で作成

作成の経緯：観光関係者と一般町民がともに伊香保町の魅力を知ることができるよう、総合的な冊子を作成して全戸に配布し、小学校では副読本として利用。町外へも、県観光連盟等の観光関連団体や県庁、県立図書館等へ配布



リーディングプロジェクト7：

近隣区とともに推進する広域観光ルートの開発と情報発信（プロジェクト番号：3 - 3 - ）

「江東5区」の他の構成区（墨田区・江東区・足立区・江戸川区）や台東区とともに、新東京タワーや“下町的空間・イメージ”等をテーマに、連携して広域観光ルートを開発し、情報発信に取り組みます。

具体的な事業イメージ：「東京下町ネットワーク化」事業

【概要】 平成23年の新東京タワーの完成によって「江東5区」や台東区への来訪者が増加することを見据えて、関係区と「(仮称)東京下町ネットワーク」の形成に向けた協議を行い、広域観光ルートの開発や共同での情報発信の実施等を目指します。

【推進体制】 協議は行政と観光関連組織、民間事業者とが連携しながら行うこととし、ハード整備やソフト面の取り組みを各主体が役割分担して推進します。

【留意点】 “下町的空間・イメージ”として広域で共通のテーマを掲げつつ、その中で他の区から「かつしか観光」をきちんと差別化し、葛飾区ならではの魅力を提供していくこととします。

《新東京タワーのイメージパース
～隅田川から新タワーを望む》



東武鉄道・新東京タワー提供